

めいわ 社協だより

令和元年7月号 令和元年7月1日発行

社会福祉法人明和町社会福祉協議会
(明和の里・ありんこ)
三重県多気郡明和町大字馬之上917-1
TEL 0596-52-7056
FAX 0596-52-7057
<http://www.ma.mctv.ne.jp/~mei-skyo/>

★ 明和町内企業CSR紹介 ★

たなか建築 代表 田中吉博氏
〒515-0321 多気郡明和町斎宮字東野1497-45
TEL 0596-52-5312 FAX 0596-52-6119



CSR活動取材させて下さい!

うちの会社の活動を紹介して!
地域の為に何かしたいと思っている!
そんな企業担当者様、是非上記まで
ご連絡ご相談下さい! 担当:山田・西中

17年間途切れる事なく開催してきた 「わくわく元気まつり」その原点にあるもの

毎年8月第1日曜日にたなか建築で開催されるチャリティーイベント「わくわく元気まつり」。その収益金は社会福祉法人おおすぎと明和町社会福祉協議会へ全額ご寄付いただいております。当協議会への寄付額だけでも、その総額は平成13年から累計で170万円を越える額となっています。そもそも、このチャリティーイベントを何故始めようと思ったのか。そこには20年以上前に遡る田中社長のある「出会い」がきっかけとしてありました。

多くの人との「出会い」があって 今の自分がある

『バリアフリー』今でこそ、聞き慣れた言葉ですが、20年以上前はまだまだ一般的な言葉ですらなかった。そんな時に、あるお客様から「車いすでも安心して生活できる家を」と住宅改修のご依頼を頂いた事がきっかけでした。経験はおろか知識もない中で、「どうすればお客様に喜んでいただけるのか」悩み続けた田中社長は、福祉職の知り合いに紹介を得て、ある専門の先生を訪ねたそうです。初対面にも関わらず、その先生は懇切丁寧に指導をして下さったとの事。以来、先生のご指導のもと、バリアフリー住宅改修は勿論の事、障がい者施設の建設も数々手掛けられ、2002年にはハウスアダプテーション～住まいのバリアフリー～コンクールにて優秀賞を受賞される等、バリアフリー建築分野を牽引して来られました。一つの出会いが、新たな仕事、新たな出会いを生み、自分と会社を育てて下さる。その感謝の気持ちを何か形にしてお返しできないか。田中社長の思いが強まる中、ご指導いただいた先生が社会福祉法人おおすぎの理事長に就任された事をきっかけに、チャリティーイベントを始められました。

わくわく元気まつり 平成30年度協力企業等
朝日ガスエナジー、旭建材、雨宮、大喜多水道、奥野瓦工業、
オクノ電器、河辺タタミ兄弟商会、妃翔、クリナップ、坂谷木工、
佐久間金物、サンワ電業、シー・イー倉世古、杉本家具工房、
スミコウカーテン、菱田建材、松長木材、明和クレーン、山村塗
装セイワ、中出均さん、秋山修一さん 他、多数の方々

信頼でひろがる協力の輪

わくわく元気まつりは、例年、多くの来場者で賑わいます。企画から準備、当日のスタッフ等、どのように運営されているのかお聞きすると、はにかみながら田中社長は「FAX1枚流すだけなんですよ」とおっしゃいます。開催告知のFAXを取引先や知人に送ると、毎年、多くの企業スタッフがボランティアとして企画段階から駆けつけて下さるとの事。クレーン会社さんがクレーンで万国旗を天高く吊った会場で、建設業者さんが本職さんからの飲食ブースを建設し、タイルや木材をそれぞれの企業さんが無償で提供して催されるタイルアート教室や木工教室等…。それぞれの強みを活かして毎年嗜好を変えておまつりを盛り上げてくれています。「夏休みの一番の思い出になった」という子ども達の笑顔に出会い、「まだまだ続けなあかな、と勇気をもらうんです」と田中社長。一つ一つの出会いを大切にされる田中社長だからこそ、バリアフリー建築の先駆企業として地域から愛され、17年間途切れる事なく、地域の風物詩として、そして、地域住民とボランティアスタッフの笑顔が交わる、かけがえのない場として続いているのだと感じました。

日本の伝統文化に触れる機会を…

応接室に飾られている茶室。興味本位で伺ってみると、たまたま、とある産業展に出展を頼まれて創作した組立式の茶室なのだとか。当初、販売や貸出しを考えていたそうですが、広報まで手が回らず、今はイベントで依頼のあった時だけ無償で貸しているそうです。「子どもたちにもっと日本の伝統文化に触れてもらいたい」そんな思いを口にされた田中社長。思わず「地域のお茶会サロンに子どもを招いて使わせてもらえたら…」とお願いすると、笑顔で「いつでも言って下さい」と。田中社長との出会いに新たな地域づくりの始まりを予感し、心躍る取材となりました。



組立式茶室は10分で解体可能

基本理念

みんなの地域をみんなでつくる

～一人ひとりそれぞれに役割があり 生きがいがある地域社会の実現～

平成31年度事業実施計画

◆ 地域福祉活動計画の推進

平成31年3月に明和町・明和町社会福祉協議会合同で、地域福祉計画・地域福祉活動計画を策定致しました。本計画は明和町で初めて策定され、今年から5ヶ年で推進してまいります。



< 重点取り組み項目 >

◎福祉団体がともに参加して、福祉体験教室を実施します。

町内の小学校へ出向き、授業の中で器具を使用し、高齢者疑似体験をしたり、車いすを操作する体験や乗ってみる体験、アイマスクをつけて視覚障がいのある方の体験を実施します。障がいのある当事者の方も参加し、一緒にお話ししたりする事で、相手の気持ちを理解するきっかけになります。



◎お困りごとに合った生活支援サービスの開発や生活支援ボランティアを活性化します。

買い物、コミュニティカフェ、見守り、ゴミ出しや掃除といったコミュニティサービスを地域住民の支え合いによる仕組みを構築するため、生活支援サポーター（ボランティア）を養成し、活躍できるよう支援していきます。



◎子ども食堂（子どもの居場所）を各地区で開催します。

地域の大人が子どもに無料または低額で食事を提供する取り組みです。地域の交流の場としての役割を担っていることも多くあります。5年間で各地区で1箇所以上での開催を目指します。今年は斎宮地区にて開催予定です。



◎福祉避難所訓練を実施し、支援が必要な方も一緒に防災訓練に参加できるように取り組んでいきます。

大規模災害が発生した時、高齢者、障がい者、妊産婦などの災害弱者は一般の避難所では生活に支障をきたすことがあります。これらの方々に特別に配慮した「福祉避難所」として明和の里・ありんこでの訓練を実施し、支援が必要な人も一緒に訓練に参加しやすい取り組みをおこないます。



令和元年度 収支予算

